

教案 「ことばにしたい！」「書けた！」が生まれる：「今日のトコントコトン」

目次

対象となる子ども	1
目標	1
活動実施上の基本方針	2
活動の構造	3
全体の概要（おおまかな流れ）：	4
実施上のヒント	5
(1) こんなときどうする？	5
(2) 返事について	6
新しくオリジナルワークシートをつくるとき	7
(1) トピックの立て方	7
(2) 使用する言語について	8
活動のバリエーション例	9
参考 本教案で紹介した実際の取り組み例	10

■ 対象となる子ども

年齢	小学2年生～大学生
人数	個人（→グループや親子などでも可）
経験・知識	特に条件なし
日本語力の 目安	仮名の読み書きができる 日常生活のやりとりがある程度日本語でできる

■ 目標

目的	身近な事柄に意識を向け、いろいろな見方やことばを体験したり、ことばを使えば誰かに伝えることができるという、ことばのもつ力を感じたりすることで、書くことに対する抵抗感を減らす。
目標	・ 毎日（定期的に）書くことを通して、自分から「書く」ことを楽しめるようになる ・ 普段は意識しない身の回りの事に注意を向け、感じたことをことばにする（→高学年以上：そうすることで自分の中にあるものや興味・関心に気づく） ・ 一つの事にフォーカスし、様々な角度から観察したり考えたりする（→高学年以上：そうすることで一つのことに多様な見方や捉え方があることに気づく）
言語面の 目標	・ 「わからない」も含め、見つけたことや感じたことを言語化する ・ 表現の微細な違いや類義語には意味の違いがあることを知る ・ いろいろな語彙・表現に触れることで、言語に対する感覚を磨く

■ 活動実施上の基本方針

(1) 「いい作文」を求めない

実践者に伝わるようにという点以外は特定の「読み手」や「書き方」は想定していません。それらは「いい作文」というプレッシャーやハードルにつながるからです。思ったことを書きたいように、とにかく「何か書いてみるだけでいい」というスタンスです。

→ 「ことばにしたい!」を引き出すための声かけ例を、[全体の概要](#) (p.4) や [こんなときどうする?](#) (p.5) に示しました。

→ 自由に書く際の[使用する言語について](#) (p.8) もご覧ください。

(2) 子どもが書いた内容はそのまま受け止める＝安心して自己表現できる場

基本は「書いてよいこと／いけないことはない」です。添削や間違いの指摘もしません。「何を書いても受け入れてもらえる＝安心して自己表現ができる」と考えています。

→ 詳しくは(3)と合わせて[返事について](#) (p.6) をご覧ください。

(3) 返事は心を込めて簡潔に

子どもが書いたものが霞んでしまわないよう、また実践者自身が長く続けるためにも、[実践者からの返事はシンプルに](#)。子どもがエンパワメントを感じられるよう心がけ、返事を書く時間がないときも「ちゃんと読んでいるよ」と伝えています。

(4) トピック、メッセージ、返事は目の前の子どもに合わせる

各ワークシートにはトピックと、それに関連したメッセージとイラストがあります。今回ここで紹介しているワークシートはあくまで一例で、トピックやメッセージは作成した時の子どもたちに合わせたものです。別のトピックで新しくワークシートを作成する際には、目の前の子どもたちに合わせてトピックを選び、メッセージや返事もその子どもたちに合った語彙・表現、情報、ことば遣いを用います。そうすることで、子どもたちの中にある思考や当たり前を刺激したいと思っています。

→ [新しくオリジナルワークシートをつくる時](#) (pp.7~8)

(5) 定期的に取り組むことで「やつつけ仕事」にさせない

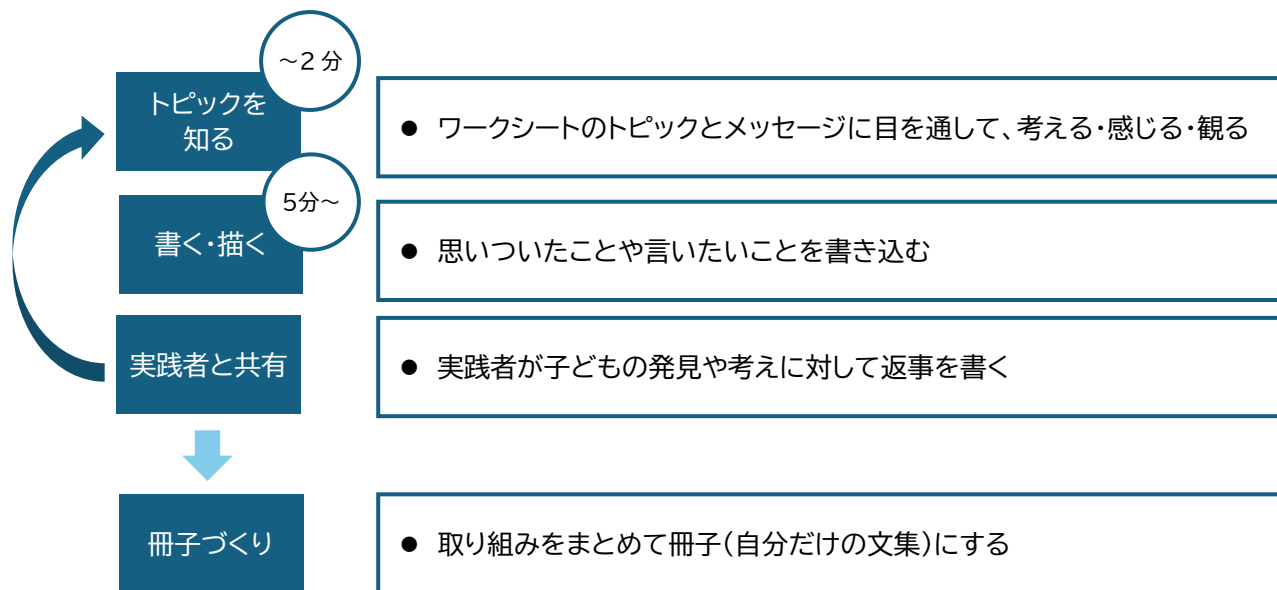
矛盾しているように聞こえますが、不定期に実施したりその日の都合に合わせて時間配分や取り組み方を変更したりすることは、子どもたちに「とりあえず」「やらなければいけない」とものと感じさせてしまうのではないのでしょうか。毎日取り組んだ例もありますが、それぞれの状況で無理のないルーティンを組み、取り組めそうにない日はあらかじめ休みを宣言しています。

(6) 「合わない」可能性も忘れず柔軟に

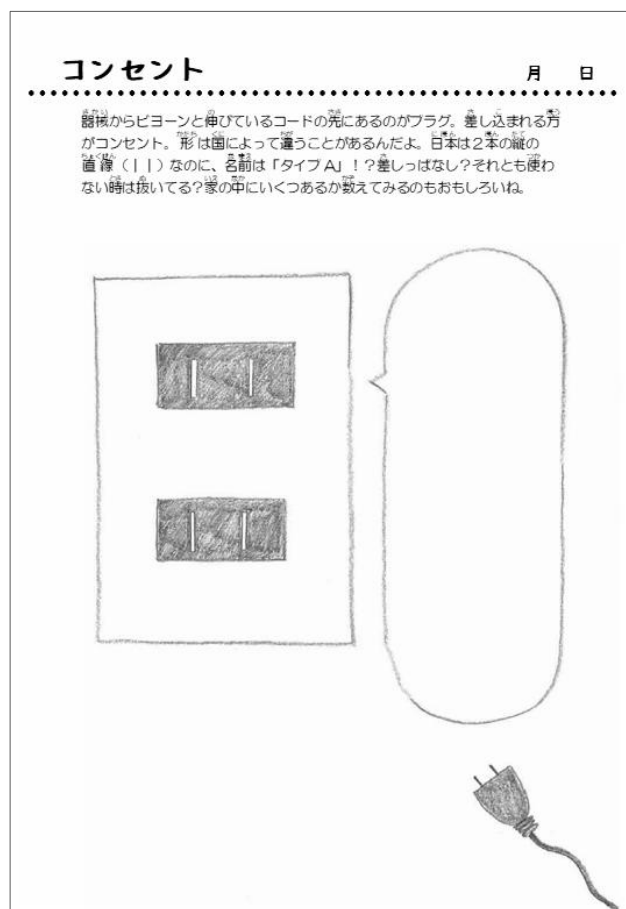
自主性や主体性を伸ばすためには、その子にとって「はまらない活動」である可能性も否定できません。一定期間取り組んでも自らすすんで取り組めない場合は、その背景や要因を探りつつ、代替の取り組みを模索する余地も頭の隅におくよう心がけています。

■ 活動の構造

定期的に続ける。(一人で取り組むことに慣れてくると宿題にすることも可。)



ワークシート例



← トピック、
取り組んだ日の日付

← メッセージ

※ 他のワークシート例は、[こちら](#) (PDF) ご覧ください。

■ 全体の概要(おおまかな流れ):

子どもが一人で書くことに慣れるまでは必ずいっしょに取り組んでください!!

時間	活動内容	留意点
準備	・印刷推奨サイズ 1ページ1トピックならB5(原寸)またはA5 1ページ2トピックならA4で1ページ2アップ ・配付前に実践者がワークシートに日付を記入しておく ・(可能であれば)複数日数分をまとめて配布したりトピックを予告したりしておく	・A4用紙で1日1ページだと空白が多くなりプレッシャーになる ・記入忘れてやる気を削いでしまわないようにするため日付記入  ←月ごとにまとめた例
~2分	【トピックの確認】 ① ワークシートを一人1枚配り、必要に応じてトピックに関するメッセージに目を通す。子どもから質問や話したいことがあれば聞く <u>実践者の声かけの例:</u> T:今日は〇〇を考えよう／見てみよう 〇〇って知ってる?／何がある? T:〇〇を見つけられるかな?	・書きたいことがある子は読まずに書き始めてもそっとしておく ・はじめの頃は子どもの考えに影響しすぎない程度に実践者が考えたことを軽く紹介する方法も
5分~10分	【一つのことをトコトン考え、思いや考えたことを書く】 ② 考えたこと、思いついたこと、発見したことなどを好きな場所に自由に書く(絵を描いてもよい) <u>実践者の声かけの例:</u> T:そこに書いてあることに答えなくていいよ。 今、頭に浮かんだことを書いてみよう。 何を書いてもいいよ。間違えてもいいよ。 T:いい作文を書こうと思わなくてもいいよ。 分からない単語は〇〇語でもいいよ。 T:「うーんと考えたけど分からない」もOK ③ 実践者は子どもたちの様子を見ながら、一人ひとりに声かけをする→<u>こんなときどうする?</u>(p.5) ④ 書き終えたら、実践者に提出する	・慣れるまではじっくり ・時間をかけすぎると負担が増える ・表現したいという思いを大切に  ←トピック「今年の漢字」に選びたいことばに漢字があるか国語辞典で調べている ・子どもからことばや表現について質問やSOSがあれば、知りたいと思ったチャンスを逃さない
	【実践者からの返事を書く】 子どもと対話しているつもりで、子どもの発見や着眼点に驚いたり、共感したり、率直な感想を述べる <u>返事の例:</u> ・〇〇ということ?／〇〇だったんだね。 ・なるほど!／そうなんだ!／すごい! ・気づかなかった!／そんな考え方もあったんだ! ・それでどうしたの?／続きが気になる… など	・一言で終わっていても、まずは自ら表現したことを受け止める ・困りごとや悩みの解決や、指導をしようとする →<u>返事について</u>(p.6) ・書く技術に対する評価ではないので、確認や質問はしても訂正はしない

■ 実施上のヒント

(1) こんなときどうする?

この活動では、子どもたちが「書けた!」という成功体験と達成感を重ねることをめざします。そのため、実践者がどんなときに、どのように声かけをするか、時にはそっとしておくことも大切であると考えています。そこで、以下に、初めて実践するときに悩みやすい5つのケースを挙げて、具体的な声かけ例(T:)を示しました。あくまで一例で、子どもの様子を見ながら、関係性や距離感に応じて、声かけをしています。

① 書くことが何も思いつかない

→ 必ず何か感じたり思いついたりしているので、そのことに気づかせる

T:はじめに頭に浮かんだことは何?

→ いっしょにさがしたり、会話や対話を通してトピックに対することばを引き出したりする(場合によっては子どもの発言をリピートやリフレーズ)

T:それをそのまま書いてみよう!

→ 視点を変える提案をする

T:○○だったらどう考えそう?

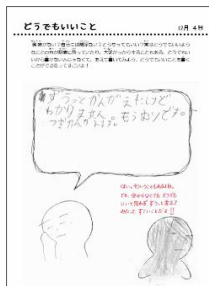
T:もし自分がその物/立場だったら?

→ 分からないということを書くよう提案する

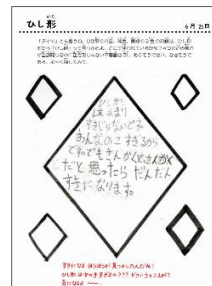
T:「いっぱい考えたけど分からない」「そんなこと考えたことなかった」はどう?

T:「あるけど日本語の言い方が分かりません」でもいいよ。

T:「今日初めて○○の意味を知りました」でもいいよ。それも記録だよ。



「何も思いつかないこと」
について書いた子ども
(拡大画像は p.10)



書くことも嫌いな対象への
見方を変えることで書く意欲が
わき、その過程を書いた子ども
(拡大画像は p.10)

② トピックのことばの意味を勘違いしている

→ 質問がない限りは、まずは書くのを待ち、書いたことを受け止め、褒める

→ 直接の会話で誤解を解いたり、何にどうつまづいたのかを指導につなげたりする

③ 絵だけを描いた

→ 絵に感動したり、驚いたり、喜んだりしながら、何を表したのか確認する

T:すてき!ことばでも残しておかない?/残してほしいなあ。(無理強いはいしない)

T:描いた感想をぜひ一言どうぞ!

④ 他の人のことについてネガティブな内容を書こうとしている

→ ネガティブな感情でも、その子にとってはその時に「表現したい」ことなので、受け入れる

→ 対象者本人の目につかないよう、自分の中だけに収めておくよう気をつけさせる

⑤ 他に書きたいトピックや内容がある

→ 子どもの書きたい気持ちを歓迎する

S:今日は他に言いたいことがあったのに...

T:いいね!じゃあ、それを書いてみて!タイトルも変えていいよ。

(2) 返事について

良いことも悪いことも返事は書きすぎない。

たくさん書きそうになる時こそ「紙の外」でコミュニケーションをとるように心がけています。

子どもたちが書いたものを読んでいるとき、思わず驚きの声が出たり笑ったりすることもあります。また、悩んでいる様子、指導を入れたいような内容のときもあり、返事に困ることも多々あります。けれど、子どもたちは吐き出したいだけかもしれません。

また、たくさんの返事を書くことが日常化してしまうと、こちらも息切れしてしまいます。そのため、返事はシンプルに、まずは「あなたの考えや思いは受け取ったよ」というメッセージが伝わるようにしています。

他にも、返事を書く際に気をつけているポイントを、以下に5つ挙げます。

① 「書いてよいこと／いけないこと」はない

- ・ 何を書いても受け入れてもらえるやりとりを通じて、子どもたちは意見・感想をもつことや、それらを表現することに慣れ、自己表現につながると考えるからです。どんな内容でも、「書いた」ということをいつでも同じように受け止めます。

② 簡潔に

- ・ 共感や肯定をベースに、深追いはしないけれど「応援してもらっている」「自分に興味をもってくれている」と、子どもたちがエンパワメントを感じられるものを心がけています。また、返事の量が多いと読み返したときに子どもが書いたものが霞んでしまうからです。

③ 解決や指導を試みない

- ・ 子どもたちが書いたものを読んでいると、悩んでいる様子、改善してほしいと思うような内容のときもあります。けれども、ここではそのまま受け止め、いつもと同じ量の返事にとどめて、その後必要そうであれば機会を見て直接声をかけます。
- ・ 注意や指導をしたくなるような内容、反省を促したい内容に対して、否定的、指導的な返事を返すと、子どもたちは大人の顔を窺って複雑な内容を探し始めたり、表現することに抵抗を感じたりするようになります。「何を書いてもいつも同じように無条件に受け入れてもらえる＝安心して自己表現ができる場」なのではないでしょうか。

④ 添削や間違いの指摘をしない

- ・ 表現したい、伝えたいという思いを優先し、基本的には言語表現や表記の間違いは直しません。間違いの指摘は「いい作文が書けない」「いっぱい訂正されてイヤ」に繋がりがやすいからです。
- ・ ただし、子どもから希望があればその熱意を尊重します。子どもの意図を決めつけてしまわないように何度も読み返し、返事とは異なる色のペンで他の語彙・表現を提示します。間違いの修正や再提出は求めませんが、気づいていないようであれば、折を見て声をかけます。

⑤ 返事が間に合わなくても読んだことは伝える

- ・ 子どもたちはこちらが思う以上に実践者の反応を楽しみにしています。返事が間に合わないときも、「読んだよ!でもごめんなさい。返事は明日(次の時に)書くね!」と、書いた直後にちゃんと読んでいることが伝わるように心がけています。

■ 新しくオリジナルワークシートをつくるとき

今回掲載しているワークシートは一例です。ここでは、今回のワークシートに込めた考え方や工夫を紹介します。この実践アイデアが、ご自身でのオリジナルワークシートづくりの何かしらの参考になれば嬉しいです。

- ・ 作成者自身が気になったこと、子どもたちの間で話題になったこと、深めたいと思ったこと、目に触れたもの、聞こえた言葉や音など、一つのことに焦点を当てるだけで、何でもトピックになり得ます。
- ・ 行事後の作文は事実の羅列や記録になりがちですが、(記録が目的ではないのであれば)トピックを焦点化することで、子どもたちも取り組みやすくなります
例:運動会「力を注ぐ」「聞こえた音」「心の中で一番大きい気持ち」「もう一回!」「食べ物」など
- ・ それぞれのメッセージを考えるときには、目の前の子どもと対話をしているつもりで、その子に合ったことばの選択や語りかけを心がけています
- ・ 必要に応じて少し長くなってもトピックのことばそのものの説明や背景知識を入れています
- ・ よくある意見はあえて先に提示することで別の考えを誘ったり、「当たり前」の揺すぶりを狙ったりすることもあります

※ なお、この実践アイデアは、市販教材『1日ひとつのことだけ日記』(宮川俊彦著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2007)に出合ったことから生まれたものです。

(1) トピックの立て方

日常の些細な出来事や時事などを取り上げることで、トピックは無限に生まれます。今回共有するワークシートのトピックは、日常にありふれた事物と子どもたちが苦手なものを中心に、以下の観点から作りました。観点は必ずしもきれいに分類できるものではなく、重なりもあります。

具体的なワークシート例は、[こちら](#) (PDF)  をご覧ください。

- ① 日常生活の中で身の回りにあるもの・こと・人
- ② 自分自身の観察
- ③ 他の視点に立ってみる
(※子どもたちが他の視点に立っていない書き方をしても、そのままにします)
- ④ 感情表現(特に取り上げることを避けられがちなネガティブな気持ち)
- ⑤ ことば(慣用表現・慣用句、オノマトペ含む)
- ⑥ 季節・行事・文化

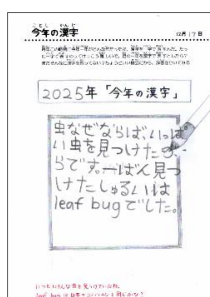
など

(2) 使用する言語について

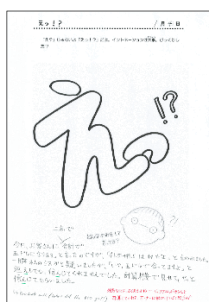
トピック、タイトル、メッセージの部分は、実施する地域の主要言語などを特には併記していません。対象者として「仮名の読み書きができる」「日常生活のやりとりがある程度日本語でできる」を想定しており、メッセージの漢字には振り仮名があるためです。

また、トピックだけでなく、メッセージで使用する語彙・表現や文体・語調も子どもに合わせて変えることができるので、子どもたちに合わせた「少し頑張れば分かる日本語」で作ったり、変更したりしています。

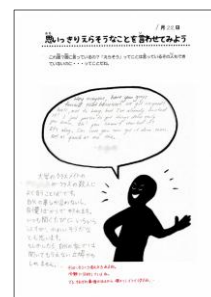
子どもたちが書くときに使用する言語は、状況に応じて「ぴったりする表現がないときは無理に日本語に訳して書く必要はない」「どうしてもわからなければ他言語が混ざっていてもかまわない」など柔軟に対応できるかと思います。



日本語で何と言うか
分からないことは、
知っている言語で
(拡大画像は p.10)



説明部分は日本語で、
驚いた気持ちは体験した
時の言語の方が語調も
ぴったり合うのでその
言語で
(拡大画像は p.10)



友人が日本語ではない
言語で言ったことなので、
引用部分は発言した人の
言語をそのまま
(拡大画像は p.11)

■ 活動のバリエーション例

ペアやグループ、親子での取り組みも可能です。その場合も基本は個人活動で行います。

以下にバリエーション例を記載していますので、子ども一人ひとりの様子に応じて、工夫してみてください。

① ペアやグループで取り組む

複数人で取り組むと面白そうなトピックの時は、個人活動とペア／グループ活動を適宜組み合わせ、て交流を仕組むこともできます。

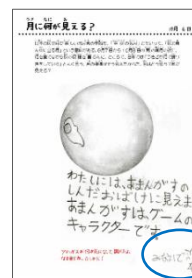
例1) 書き始める前に、ブレインストーミング的に思いついたことを出し合う

例2) 書き終わった後に読み(発表し)合い、感想や新たに思ったことを伝え合う

例3) 実践者が返事を書き終わったあと、表現や着眼点などを紹介する

注意点:

- ・ 実践者以外の人に読まれるかどうかで書く内容が変わる子どももいるので、書いたものをどのように共有するか(しないか)は初めに示します
- ・ 以下に載せている例のように、共有が目的ではないときは、他の人に紹介してほしくない場合はページの片隅に印をつけさせるなど、子どもの意思が分かるようにしておきます



他の人に見せたくないときは、右下に星印をつけている
(拡大画像は p.11)

② 親子で取り組む

まだ実践したことはありませんが、「交換日記のように子どもが書いたものに親が返事を書く」「親子で同じトピックに取り組んで読み合い、会話する」などが考えられます。同じ事柄でも捉え方や考え方の相違点が見え、お互いの新しい一面が見えてくるのではないのでしょうか。

③ 合体作文(1年のまとめ)

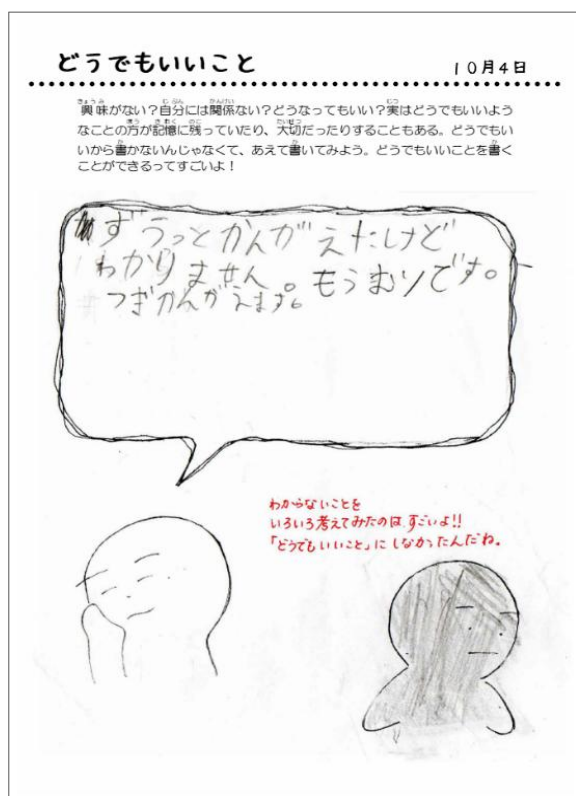
こちらも実践したことはまだありませんが、似たようなトピック(例: 季節関係するもの)で書いたものをつなげると、一つの長い作文にすることができるかもしれません。

つなげる際は書いた日付の順ではなく、話がつながるようにします。読み手に分かりやすいように、並べ替えたりことばを足したりする作業は、マインドマップで出したアイディアを文章に組み立てていく過程と重なります。

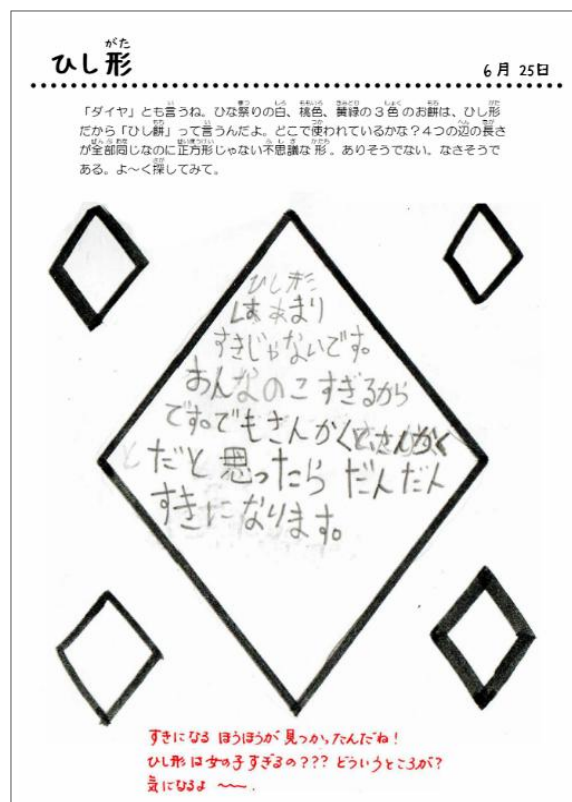
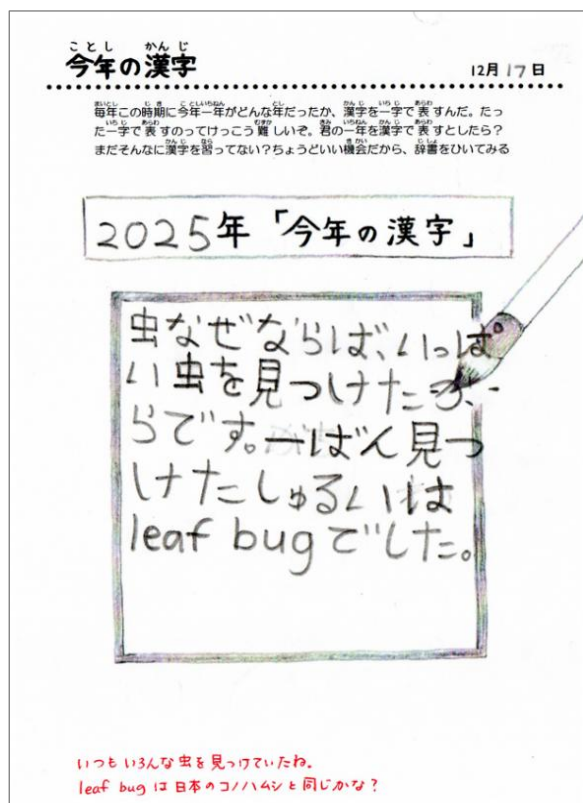
また、「双括(サンドイッチ／OREO／PREP)型意見文」(※)の型を使って、「はじめ」と「おわり」に一文ずつ足すとパラグラフに、文章を足すとエッセイ風にすることもできるかと思います。

※ 双括型意見文とは、はじめに自分の意見を示し、理由や具体例を書いたあと、最後にもう一度意見でまとめる方法です。OREO は Opinion (意見) – Reason (理由) – Example (例) – Opinion (意見)、PREP は Point (要点) – Reason (理由) – Example (例) – Point (要点) の頭文字を取ったものです。

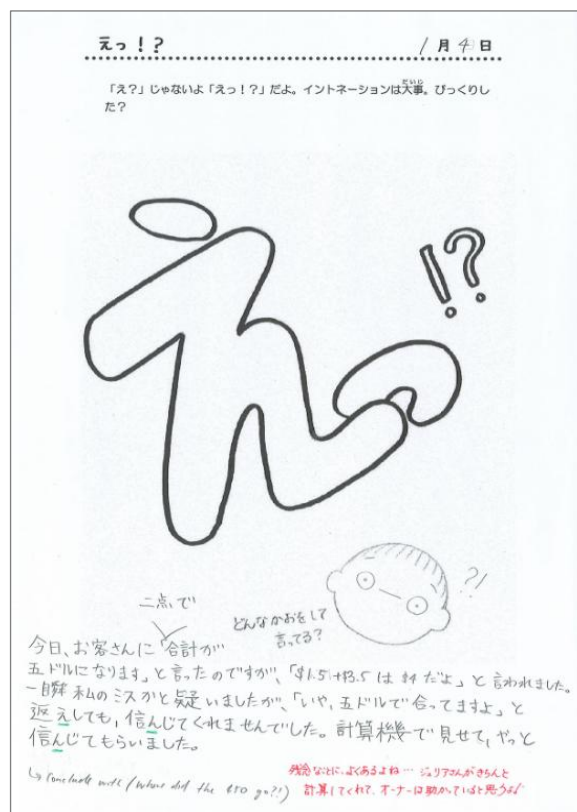
■ 参考 本教案で紹介した実際の取り組み例



「何も思いつかない」ということが書けた例

捉え方を変えることで書けた例、
トピックの対象そのものではなく、考えの変化の
過程を書いた例

日本語での表現を知らない場合



ぴったり合う言語で気持ちを書いた例

/ 月 22 日

おも **思いっきりえらそうなことを言わせてみよう**

これ誰が誰に言っているの? 「えらそう」ってことは言っているその人もでき
ていないのに・・・ってことだね。

Hey everyone, have you guys
finished that homework we got assigned?
Well, not to brag, but I've already finished
it! I just prefer to get things done early
you know. Oh! you haven't started it?
It's okay, I'm sure you can get it done soon.
Not as quick as me tho.

大学のクラスメイトの
か"クラスの数人に
よく言うことは"です。
自分の事しか言わないし、
自慢は"かって" されます。
いつも聞きたびに"いろいろ
しますが、"、"かわいい"など
とも思います。
もしかしらう、自分の"家で"は
聞いてもらえない立場がも
れません。

そういう考え方もあるね。
冷静に分析しているね。
でも、それぞれ事情があるから、暖かにイライラするね。

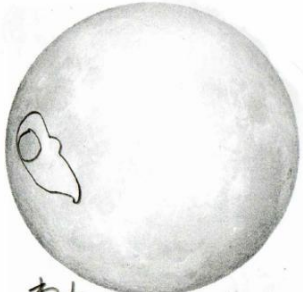


他者の発言のニュアンスを変えないよう、
あえて訳さず表した例

10月 6 日

つき なに み
月に何が見える?

日本の秋は月が美しいお月見の季節だ。「中秋の名月」ともいって、「秋の真
ん中に出る月」という意味がある。9月7日から10月8日の間の満月の夜に、
月を愛でながら秋の収穫を喜ぶんだ。ところで、日本では「うさぎが月で餅つ
きをしている」とよく言う。月の模様がそう見えたからだ。君はどう思う? 何が
見える?



わたしには、あまんが"すの
しんだおはしけに見えます。
あまんが"すは、ゲームの
キャラクターです。

アマンガスが何か長くなって、調べたよ。
なるほどね。たしかに!

みなとて☆

他の人には見せたくないときには、
ページの隅に印をつけている例